

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---

氏 名 大 岡 治 恵

論 文 題 目


The effects of maternal depressive symptomatology during pregnancy and the postpartum period on infant-mother attachment

(妊娠中、産後期の母子愛着における母親のうつ状態の影響)


論文審査担当者

主 査


名古屋大学教授

委 員 吉川史隆 

名古屋大学教授

委 員 伴信太郎 

名古屋大学教授

委 員 小島啓二 

名古屋大学教授

指導教授 尾崎 信 

論文審査の結果の要旨

母親と新生児との愛着 bonding の障害と母親のうつ病との関連に関しては、うつ病が一次的であるという説、母子間の関係が一次的であるという説など様々あるが、これまで妊娠期から産後まで同一の評価スケールを用いて検討した報告はない。そこで同一の自己記入式質問紙を用いた前向き研究により、妊娠期から産後にかけての母親のうつ状態と bonding 障害との関連を検討した。

妊娠期から産後の女性に対し、エジンバラ産後うつ病自己評価表（以下 EPDS）及び Mother-to-infant bonding scale（以下 MIB）を妊娠初期、妊娠後期、産後 5 日目、産後 1 ヶ月の 4 回実施し、388 名の結果を分析した。

EPDS と MIB スコアには各時期とも弱から中程度の相関が認められた。EPDS のカットオフポイントに基づき、Non-depressive 群、妊娠期一過性 depressive 群、Continuous depressive 群、産後 depressive 群の 4 群に分け、MIB スコアの変化を繰り返し測定分散分析で検討したところ、各群に交互作用が認められた。MIB の経過も EPDS 同様 4 群に分け EPDS4 群とクロス集計したところ、4 群の比率には統計学的に有意な差があった。

本研究により、うつ状態と bonding 障害の関連が示唆される群がある一方で、bonding 障害がうつ状態の直接的結果ではない群もあるということが示唆された。

本研究の意義と制約は要約すると以下のとおりである。

1. 直接マタニティブルーについて検討は行っていないが、産後の抑うつとマタニティブルーは関連が高いことが先行研究で指摘されており、何らかの影響がある群がある一方、出産直後の愛着は全体的に高まりマタニティブルーとは無関係である群もあると考えられ、今後サブタイプに分けて検討する必要があることが示唆された。
2. 日本語版 MIB の妥当性検証はされておらず、今後文化的背景や出産環境の違いなども考慮に入れ、更なる分析が必要と考えられる。
3. 将来的な虐待やネグレクト、それらによる子の認知発達への影響などの可能性が考えられるため、予防的見地から早期の介入や支援の方法を確立する必要がある。本研究は妊娠中や産後早期から得られる予測因子の一つとして重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	大岡 治恵
試験担当者	主査	吉川 史隆	伴 信太郎	小島 裕一
	指導教授	尾崎 公一		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. マタニティブルーの影響について
2. 日本語版MIBの妥当性について
3. 母親のうつ状態、早期の母子愛着が、将来的母子関係に与える影響について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。